

霞ヶ浦の魚

年 組 番
名前

魚やエビ，貝のなかま

魚介類



コイ



ギンブナ



シラウオ



アカヒレタビラ



ワカサギ



アシシロハゼ



テナガエビ



イサザアミ



イシガイ



イケチョウガイ

霞ヶ浦には、たくさんの魚がすんでいます。おもなものとして、コイ、フナ、ワカサギ、タナゴ、ハゼなどがあげられます。最近^{さいきん}は、外国から入ってきたブラックバスやブルーギル、アメリカナマズが増えて問題となっています。この他、大型^{おおがた}の外来魚^{がいらいさかな}としてはハクレンやソウギョがすんでいます。

外来魚について

茨城^{みずうみ}の湖^{ぬま}や沼には約60種類の魚がすんでいます。その中には外国から入ってきた種類^{しゅるい}の魚たち(外来魚)も含まれています。最近^{さいきん}の外来魚^{がいらいぎょ}としては、ブラックバス、ブルーギル、ペヘレイ、アメリカナマズの4種類^{しゅるい}です。ブラックバスは、海のスズキやハタの仲間に近い淡水魚^{たんすいぎょ}(湖や川に住む魚)で、別名をオオクチバスといいます。体長はおよそ30cm、大きいものだと50cmぐらいにもなります。もとは北アメリカにすんでいる魚です。近年では少なくなってきました。ブルーギルは大きくなると体長20cmぐらいになります。もとは北アメリカにすむ魚です。ブラックバスはテナガエビやハゼなどの魚をよく食べます。ブルーギルはイサザアミや動物プランクトン、ユスリカなどの昆虫^{こんちゅう}からテナガエビ、魚の子供(稚魚^{ちぎょ})までいろいろなものを食べます。ペヘレイは南アメリカにすんでいる魚です。この魚は沖合から湖岸まで広くすんでいて、おもにイサザアミや動物プランクトン^{どうぶつ}などを食べています。他の県では養殖^{ようしよく}しているところもありますが、日本で自然にふえているのがわかつているのは霞ヶ浦だけです。これらの外来魚^{がいらいぎょ}は、もともとすんでいた魚たち(在来種^{ざいらいしゅ})とえさやすみ場所をめぐってあそびたり、食べたりするので、生態系^{せいたいけい}がかわってしまうかもしれません。また、霞ヶ浦の漁業者^{ぎょぎょうしゃ}にとっては、とったワカサギやテナガエビなどからこれらの外来魚^{がいらいぎょ}を取りのぞくというてまができてしまいました。



ブラックバス
(オオクチバス)



ブルーギル



ペヘレイ



アメリカナマズ
(チャネルキャット
フィッシュ)



ハクレン



ソウギョ

* その他学習資料 環境科学センター・霞ヶ浦河川事務所・水産試験場内水面支場
霞ヶ浦北浦水産振興協議会